

輸入粗飼料の情勢

全酪連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

ロサンゼルス・ロングビーチ港沖合での滞船状況は悪化しており、現在20船を超えるコンテナ本船が滞船しています。直近のオークランド港沖合でのコンテナ本船の滞船数増加を受け、船社によっては混雑の回避を目的とし7月よりオークランド港の抜港を実施しています。その結果オークランド港に近いロサンゼルス・ロングビーチ港でのコンテナの荷役量が増加しており、港湾の混雑状況が再び悪化し、PSW 発の本船スケジュールが乱れ始めています。

PNW では6月にカナダにおいて熱波が襲い、内陸からバンクーバー港を結ぶ鉄道沿線で山火事が発生しました。この影響でコンテナ輸送をしている鉄道で一時運航停止があったため、カルガリーから出荷されるカナダ産チモシーでもスケジュールの遅延が発生しています。

ビートパルプ

【米国】

ミシガン州では理想的な天候が続いて降雨量にも恵まれたものの、ノースダコタ州やモンタナ州では降雨量が少なく、地域によってビートの収量低下が懸念されています。産地相場は、シカゴ相場の穀物高騰により内需及び海外からのビートパルプの引き合い強く、21-22年産ビートパルプ価格は大幅に上昇する事が懸念されています。

アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは、2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。南部では3番刈の収穫が間もなく開始されます。例年、ワシントン州の産地相場は輸出向けが牽引しますが、21年産は、好調な乳価の中国に加え米国内の酪農家及び肥育農家も積極的に買付しており、相場を押し上げています。穀物相場が高騰し、米国内の酪農家がアルファルファの給与量を増加させていることや、西海岸で直面する厳しい旱魃の影響で自給飼料の生産が少なく、州外からも産地に買付が入っていることが背景にあります。

ネバダ州

北部ウィナムッカ地区では2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。品質はややドライなもの色目のきれいな上級品が収穫されています。1番刈は地域により降雨被害がありましたが、収穫作業は概ね順調に進み、作柄自体は例年並みとなっています。一方西部のイエリントン地区は旱魃が厳しく農業用水の使用が制限されているため、生産量は減少しています。産地相場は近隣のカリフォルニア州の酪農家からの引き合いが強いことから上昇しています。



(ネバダ産1番刈アルファルファ 7月下旬撮影)

ユタ州

ユタ州では1番刈の収穫を終え、現在2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。1番刈、2番刈ともに天候に恵まれたため、大きな雨当たり被害がなく収穫できており、高成分な上級品も発生しています。同州は他州に比べ旱魃状況が深刻で、生産者によっては、活用できる農業用水に限りがあるため、例年に比べアルファルファの圃場を減らすなど対応し生産を続けています。



(ユタ産1番刈アルファルファ 7月下旬撮影)

オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズでは1番刈は終了し、現在2番刈が収穫されています。1番刈の収穫作業は天候にも恵まれ、大きな降雨被害もなく終了し上級品が発生しています。一方で産地では旱魃の影響で、例年よりも地下水の貯水量が低く、圃場への散水量を減らしながら生産しているため、例年よりも1～2週ほど生育が遅れており、収量も例年と比べ20%-40%程度減少しています。

同州中部クリスマスバレーでは1番刈の収穫作業は終了しており、2番刈の収穫がこれから開始されます。1番刈は収穫期に断続的な降雨があったため、雨当たり品が多く発生しており、上級品の発生は限定的です。

他地域同様、放牧草及び自給飼料が不足している、同州及びカルフォルニア州の酪農家からの引き合いが強くなっており、産地相場は上昇しています。



(オレゴン産1番刈アルファルファ 7月下旬撮影)

米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは1番刈の収穫作業が終了しています。コロンビアベースン北部から中部にかけて6月中旬にあった降雨により、一部で雨当たり品が発生したものの、21年産は大半が中級品以上の生産となっており、下級品の発生が少ない珍しい作況となっています。

もう一つの主産地である同州エレンズバーグでも1番刈の収穫作業を終えています。一部の圃場で雨当たり被害が出たものの、収穫期に好天が続いたため上級品が中心に生産されています。

産地では現在2番刈の収穫が開始されています。コロンビアベースンでは多くの圃場でチモシーの生産を1番刈で終え、2番刈よりも換金性の高いトウモロコシや豆類などへの転作が進められています。産地相場は発生量の少ない下級品の引き合いも強いいため価格は大きく上昇しており、21年産は20年産に比べ上級品と下級品の価格差が小さくなっています。

スーダングラス

産地では1番刈は終盤を迎えており、圃場によっては2番刈の収穫が開始されています。7月は最高気温43℃前後、湿度が50%–60%と8月並みの天候が続きました。色目の鮮やかな品質の発生は少なくなっており、色目のぼやけが目立ち、茎が固く、茶葉の混入した品質の生産が増えています。

一方、米国内でコロナウイルスに対するワクチン接種が広まり、外食産業が再開したことから、野菜に対する需要が高く高値で取引されているため、21年産は2番刈を収穫せずに冬野菜へ転作準備を行う圃場が多くなっています。このため21年産スーダンの生産量は昨年に比べて15%–20%減少することが見込まれています。産地相場は引き続き輸出業者、内需へ旺盛に取引されており、低級品の価格も昨年と比べ上昇しています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地インペリアルバレーでは3番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては4番刈の収穫が開始されています。7月に入り湿度も発生しており、色目の脱色した品質も散見されています。また産地では刈遅れた低級品でも自給飼料の不足した内需からの引き合いが強いため、生産者によっては単収を増やす動きも出ています。このため3番刈では茎が太く、硬い品質が増加している印象です。



（3番刈クレイングラス 8月上旬撮影 エルセントロにて）

ストロー類

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーではフェスキュー、アニュアルライグラスストローの収穫作業が概ね終了しています。ペレニアルライグラスストローは、これから収穫が本格化します。

21年産は早魃の影響で、ストローの収量が減少しており、例年と比べるとストローは60%程度の生産量になることが予想されています。産地では生産量の減少及び旧穀からの繰り越し在庫がない状況で、21年産の買付が進められているため、産地相場は強含みで推移することが懸念されています。

カナダ産チモシー

アルバータ州南部レスブリッジ地区では1番刈の収穫を終えています。生育期に早魘及び熱波に直面したため、産地では立ち枯れた圃場も散見されました。この影響で単収は例年に比べ20%—30%程度低くなっています。

作況としては収穫期に天候に恵まれたため、南部では大半が中級品以上となっており上級品も多く発生しています。一部で下級品も発生していますが、自給飼料が不足している内需向けに成約されており相場が底上げされています。

アルバータ州中部クレモナ地区では7月中旬より1番刈の収穫が開始され、8月中旬までに収穫は終了する見込みです。

豪州産オーツハイ

西豪州、南豪州では断続的な降雨があるため、一部の圃場では若干土壌水分が高くなっていますが、順調に生育しています。東豪州ではやや土壌水分が少ない印象で、8月の降雨量にもよりますが、単収が例年以下になる可能性があります。需要については、各地で降雨があったため、放牧草が十分に生育しており、豪州全体で内需からの引き合いが弱くなっています。生産者の倉庫には輸出に適さない雨当たり品の在庫があるため、21年産の新穀に向け在庫整理のため内需向けに安価で販売されています。中国向けの輸出については、2月末以降多くの輸出業者で輸出許可の期限切れとなり輸出货量が減少していますが、進展はありません。輸出期限が残っている3工場からは総計10,000トン~15,000トンの数量が毎月中国向けに輸出されています。

豪州海運情勢について

中国では、上海港を中心に空コンテナ不足に陥っており、今後クリスマス商戦に向けた輸出の最盛期を迎えるため、船会社によってはフリータイムの大幅な短縮を実施し、早期に空コンテナを中国に集める動きが顕著になっています。一部の船社では豪州の輸出業者に対し日本への入港後、港湾で出荷待ちとなっているオーツハイを早期に出荷し空コンテナの返却が完了するまで、豪州からの船積み予約を受け入れないというケースも発生しています。

以 上